

ワールドフェスタの参加者はおよそ300人。小学校4〜6年生を中心に、普段から公民館で開催されている体験教室に通う子どもたちだ。

「この子どもたちが成人する頃には、もっと国際交流が盛んになっているはず。広い視野を持って国際社会で活躍

多彩な世界の遊びを体験 ネットを通じた交流も

ワールドフェスタの参加者はおよそ300人。小学校4〜6年生を中心に、普段から公民館で開催されている体験教室に通う子どもたちだ。

「この子どもたちが成人する頃には、もっと国際交流が盛んになっているはず。広い視野を持って国際社会で活躍

してクバーラ大会を開いたことが、現在のワールドフェスタinひた（以下ワールドフェスタ）につながっています。そう話してくれたのは、日田市光岡公民館の宇野吉信主事だ。「クバーラ大会」として続けているうちに、どうしても試合の勝敗が目向いてしまうようになりまして。でも、本当の目的は国際理解。そこで、13年からは名称を変更しました。もちろん、クバーラ体験のコーナーは続けています」

イベントの名前が変わっても、クバーラはワールドフェスタの人気プログラムだ。「作戦を立てて、仲間と助け合いながらゴールを目指す」という特徴が、公民館が目指す青少年育成という目的に合うだけでなく、チームの仲間と一緒に作戦を考えることの面白さや、協力することの大切さを感じられる点が、参加者の人気を集めているという。「クバーラを通して、友達と仲良くなったという感想も聞きます。また、クバーラのほかにも、体を動かすプログラムはどれも好評です」と宇野さんは話す。



世界の国々の情報を学ぶこともできる

できる大人になってほしいと考えて、さまざまな企画を取り入れていきます」と宇野さんは話す。

14年からは、県内の大学に通う留学生を招いて、世界中のさまざまな遊びを体験するコーナーも開いている。昨年は、ベトナムのおはじきを使ったボードゲーム、オ・アン・クアン、やゴム飛び、タイのハンカチ落とし、モン・ソン・パー、や鬼ごっこ、オスのウサギとメスのウサギ、韓国のけんけん相撲、どりの戦いなどの体験イベントを開催した。日本の遊びと似ているものもあり、楽しかったという声が多く寄せられたという。

楽しさを前面に押し出したプログラムに加えて、ワールドフェスタでは世界をより深く知るプログラムも実施してい

る。昨年は、青年海外協力隊OBが任地での体験を語るコーナーや、インターネット経由の通話ソフトを利用した海外との対話などを取り入れた。

昨年参加した協力隊OBの任地は、ナミビア、タンザニア、エクアドル、トンガの4カ国。多くの参加者にとってはなじみのない国ばかりだ。それでも、実際に見聞きしてきた人が語る体験談に、子どもたちは熱心に聞き入った。「実際に外国に行った人の話は聞いていてドキドキする」「海外では食べ物がないと死んでしまう人がたくさんいることを知りました」など、強い印象を受けた参加者も多かった。「自分でできる国際活動をしていきたい」「もっと世界のことを知りたい」と、刺激を受けた人もいたようだ。

インターネットを使った対話では、ラオスやキルギスの子どもたちと回線をつないで対話し、現地のダンスも教えてもらった。インターネットの普及した現代だからこそ実現した交流だ。

ほかにも世界の食べ物に関する写真を展示するコーナーや、いろいろな国の民族衣装を試着して写真を撮るコーナーなど、世界の文化に触れ合う機会を多く作った。JICAの国際協力や青年海外協力隊についての紹介コーナーも設けている。今後は学校で英語の授業を手伝う外国語指導助手（ALT）の人たちとの交流など、より幅広い学びの場を目指していく。

次のワールドフェスタinひたは9月10日に開催予定だ。今年はどうな遊びが楽しめるだろうか。

世界各地の民族衣装を着て記念写真を撮るコーナーも人気だ



昨年はおよそ300人が参加したワールドフェスタ。今年もさまざまな企画が準備されている



チームで集まって戦略を相談



陣地をいくつかのゾーンに分け、仲間と共に得点を目指す。クバーラは戦略と協力が重要な遊びだ

世界とつながる 教室

身体で感じる世界の遊び

子どもの頃、友達と一緒に校庭や公園で鬼ごっこを楽しんだ人は少なくないだろう。大分県日田市では、鬼ごっこによく似たマダガスカルの「クバーラ」など、遊びを通して世界を知るイベントを開催している。

仲間と一緒にゴールを目指す マダガスカル式鬼ごっこ

クバーラは攻撃側と守備側に分かれ、スタート地点から守備側チームの手をかくくぐって再び戻ってくることを目指す、チーム制鬼ごっこのようなゲームだ。アフリカ大陸南東の沖に浮かぶ島国マダガスカルに古くから伝わるこの遊びを、青年海外協力隊として現地に赴任した隊員が持ち帰り、九州海外協力協会から情報を発信している。特に道具などは必要なく、十分なスペースさえあれば、屋内でも屋外でも遊べるのが魅力だ。

「もともと、JICA九州の紹介で、公民館の職員研修の中でクバーラを体験したことがきっかけで、市内の各公民館にクバーラ体験が広まったんです。それならば、市内20の公民館を挙げて取り組む事業にできないかと考えて、2011年に国際理解教育と公民館の交流の機会と



connect with
Madagascar
マダガスカル